

〔研究ノート〕

2学期制が教員の働き方に及ぼす影響 — A市立B小学校を対象とする調査から —

清田 雄二*, 衛藤 俊寿*², 平木 功明*³, 赤星 哲也*

*日本文理大学工学部情報メディア学科

*²日本文理大学経営経済学部経営経済学科

*³日本文理大学医療専門学校臨床工学科

Impact of the Two-semester System on Teacher's Work Styles — From a Survey Targeting B Elementary School in City A —

Yuji KIIYOTA*, Toshihisa ETO*², Noriaki HIRAKI*³, Tetsuya AKAHOSHI*

*Department of Media Technologies, School of Engineering, Nippon Bunri University

*²Department of Business and Economics, School of Business and Economics, Nippon Bunri University

*³Department of Clinical Engineering, Nippon Bunri University Medical College

1. はじめに

近年、教員採用試験の倍率は低下傾向が続いている。小学校では、新年度が始まって学級担任が足りず、教頭等が担任を兼務している事例もあり、教員のなり手不足は深刻な状況である。

2022年度に実施された教員勤務実態調査の速報値⁽¹⁾においては、教師の在校時間は前回調査と比較するとやや改善傾向にあるものの、依然として長時間勤務の教員も多いという実態が明らかにされた。

こうした状況を受け、中央教育審議会特別部会は、2023年8月、「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）」⁽²⁾をまとめた。この中では、教員を取り巻く環境は我が国の未来を左右しかねない危機的な状況にあるとし、より持続可能な学校の指導・運営体制を構築していくためには、教育に関わる全ての者の総力を結集して取り組む必要があるとした。教員のなり手不足を解消するため、教師のこれまでの働き方を見直し、長時間勤務の是正を図ること等、教員を取

り巻く環境改善は急務である。

一方、教師を取り巻く厳しい状況を少しでも改善しようと自律的な学校運営を行い努力している学校もある。学校行事の在り方や指導体制を見直すとともに、2学期制を導入し、働き方改革の実効性を高めようと学校改善に着手している。

日本では、お盆や正月等の伝統行事、真夏や真冬における健康保持のための長期休業等が国民性に合致し3学期制が継続されてきた。しかし、2002年度の学校週5日制の完全実施以降、授業時数を確保することを主なねらいとし2学期制を導入する自治体が増えた⁽³⁾。

ただ、文部科学省の調査⁽⁴⁾によると、2学期制の実施率は、小学校においては、2004年度9.4%、2005年度14.0%、2007年度20.2%とある一定の広がりが見せたものの、それ以降は、2013年度20.9%、2018年度19.4%、2022年度22.3%と微増微減を繰り返している。

そこで本研究では、校長のリーダーシップのもと、教員の働き方改革の一環として本年度から2学期制を取り入れた学校の取り組みに焦点を当てる。本稿では、2学期制が教員の働き方にどのような影響を及ぼしたのかを

明らかにする。

2. 研究方法

2-1 調査対象と調査時期

調査対象は、C県にあるA市立B小学校の教職員21名とした。調査は2023年10月6日に実施した。

2-2 調査内容

本研究において実施した質問紙は、教員の業務負担を増やさないように、学校が定期的実施する学校評価（教員の自己評価アンケート）の質問項目に入れ込んだ形で作成した。2学期制に関する質問項目は以下の4項目である。

(1) 教育活動の充実について

「2学期制により、1つの学期が長くなり、余裕をもって落ち着いた学習指導や生徒指導ができたと思う」

(2) 子どもと向き合う時間の確保について

「2学期制により、ゆとりのある教育活動が展開され、子どもと向き合う時間の確保ができたと思う」

(3) 業務改善について

「2学期制により、業務改善が行われ、働き方改革が推進されたと思う」

(4) 今後の展望について

「2学期制のよさを感じたので、今後も2学期制がよいと思う」

いずれの項目も、「5非常にそう思う」「4そう思う」「3どちらとも言えない」「2そう思わない」「1全くそう思わない」から1つを選択し、その理由を具体的に記述してもらうようにした（自由記述）。

3. 結果と考察

ここでは、調査結果についてその特徴を考察する。さらに、各回答の理由について自由記述してもらった内容から2学期制の教員の働き方に対する影響を評価する。

なお、これ以降の分析・考察では、回答者の選択を「5非常にそう思う」「4そう思う」は「肯定」、「3どちらとも言えない」は「中立」、「2そう思わない」「1全くそう思わない」は「否定」と位置づけていく。

3-1 全体的な特徴

(1) 教育活動の充実について

「2学期制により、1つの学期が長くなり、余裕をもって落ち着いた学習指導や生徒指導ができたと思う」

と尋ねた結果を図1に示す。「非常にそう思う」が71.4%、「そう思う」が23.8%で、合わせると95.2%の教職員が、2学期制は教育活動の充実につながったと肯定的に捉えている。「どちらとも言えない」と中立の立場は4.8%であり、否定的な意見はなかった。

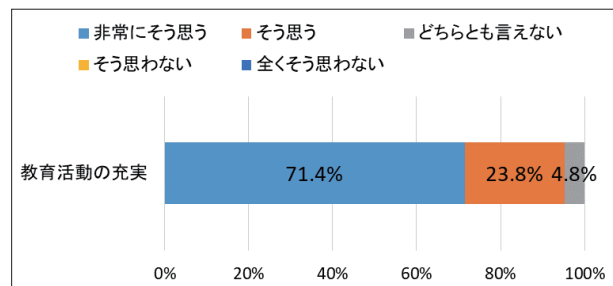


図1. 教育活動の充実に関する結果

(2) 子どもと向き合う時間の確保について

「2学期制により、ゆとりのある教育活動が展開され、子どもと向き合う時間の確保ができたと思う」と尋ねた結果を図2に示す。「非常にそう思う」が47.4%、「そう思う」が52.6%で、全員が2学期制は子どもと向き合う時間の確保につながったと答えている。

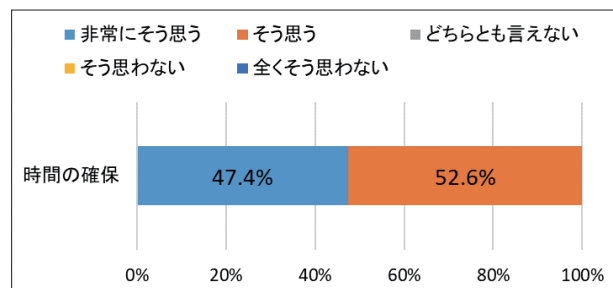


図2. 子どもと向き合う時間の確保に関する結果

(3) 業務改善について

「2学期制により、業務改善が行われ、働き方改革が推進されたと思う」と尋ねた結果を図3に示す。「非常にそう思う」が30.0%、「そう思う」が35.0%で、合わせると65.0%の教職員が2学期制は業務改善につながったと肯定的に捉えているものの、「どちらとも言えない」と中立の立場が25.0%、「そう思わない」と否定的な立場が10.0%と教職員の意見が分かれた。

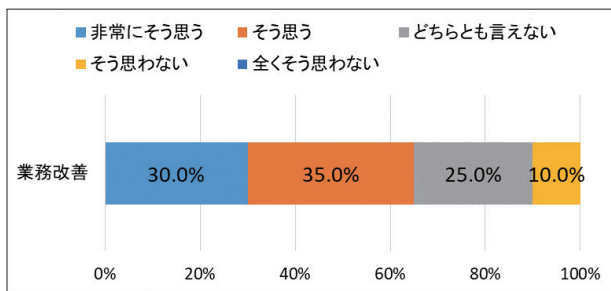


図3. 業務改善に関する結果

(4) 今後の展望について

「2学期制のよさを感じたので、今後も2学期制がよいと思う」と尋ねた結果を図4に示す。「非常にそう思う」が76.2%、「そう思う」が19.0%で、合わせると95.2%の教職員が、2学期制を継続してほしいと肯定的に捉えている。「どちらとも言えない」と中立の立場は4.8%であり、否定的な意見はなかった。

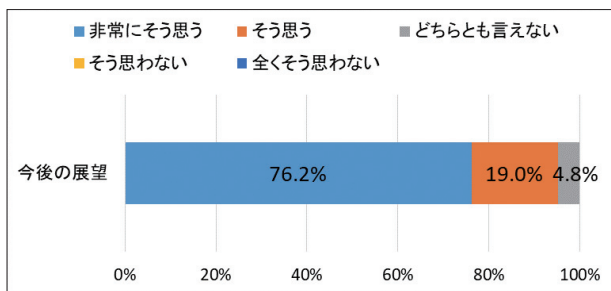


図4. 今後の展望に関する結果

3-2 理由づけ(自由記述)の分析

理由づけの分析にあたっては、KH Coder 3による計量テキスト分析を行った⁽⁵⁾⁽⁶⁾⁽⁷⁾⁽⁸⁾。

まず、前処理をして抽出語を確認した。「学期制」「子どもたち」「夏休み前」「7月」「成績処理」「在校時間」「業務改善」「校長先生」「秋休み」の抽出語が分離されていたので、これらを強制抽出されるように設定した。

文書の単純集計結果は、次の通りである。

(1) 教育活動の充実については、20の段落、33の文が確認された。分析対象となる総抽出語数は750語、異なり語数は223語であった。

(2) 子どもと向き合う時間の確保については、21の段落、28の文が確認された。分析対象となる総抽出語数は544語、異なり語数は179語であった。

(3) 業務改善については、21の段落、30の文が確認された。分析対象となる総抽出語数は575語、異なり語数は184語であった。

(4) 今後の展望については、24の段落、29の文が確認された。分析対象となる総抽出語数は552語、異なり語数は201語であった。

これらの中から抽出された語のうち、それぞれの質問項目において出現回数の多かった上位25語は表1の通りである。(1)-(4)の質問項目に対して、4項目すべての中から抽出された語は、時間(25回)、思う(24回)、夏休み(13回)、あゆみ<注(1)>(12回)であった。また、3項目の中から抽出された語は、子どもたち(24回)、学期制(22回)、余裕(18回)、学習(13回)、感じる(12回)、

表1. 教育活動の充実、子どもと向き合う時間、業務改善、今後の展望に関する自由記述における頻出語(上位25位)

順位	(1)教育活動の充実について		(2)子どもと向き合う時間の確保について		(3)業務改善について		(4)今後の展望について	
	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
1	評価	12	子どもたち	12	時間	8	学期制	10
2	学期制	8	思う	7	夏休み	6	思う	6
3	子どもたち	8	時間	7	感じる	6	減る	5
4	余裕	7	余裕	6	思う	6	時間	5
5	学習	6	7月	5	在校時間	5	余裕	5
6	思う	5	夏休み前	5	改善	4	あゆみ	4
7	時間	5	学習	4	学期制	4	感じる	4
8	月	4	減る	3	放課後	4	子どもたち	4
9	作成	4	活動	3	行う	4	成績処理	4
10	先生	4	向き合う	3	成績処理	4	夏休み前	3
11	長い	4	心	3	業務	3	学習	3
12	あゆみ	3	成績処理	3	仕事	3	秋休み	3
13	スパン	3	一人ひとり	2	使う	2	メリット	2
14	夏休み	3	夏休み	2	あゆみ	2	夏休み	2
15	夏休み前	3	過ごす	2	回数	2	回数	2
16	指導	3	確保	2	学年	2	向き合う	2
17	単元	3	感じる	2	活用	2	参観	2
18	変容	3	頑張る	2	業務改善	2	思える	2
19	課題	2	期間	2	月	2	授業	2
20	学期	2	週間	2	考える	2	先生	2
21	学級	2	接する	2	作成	2	大きい	2
22	学力	2	相談	2	使う	2	長い	2
23	活動	2	増える	2	自身	2	日程	2
24	基礎	2	多い	2	早い	2	負担	2
25	計画(他11語)	2	昼休み(他5語)	2	働く	2	意識(他88語)	1

成績処理（11回）、夏休み前（11回）であった。これらの語は、『学期制』を変更することによって、「時間」や「余裕」という時間に関すること、「あゆみ」や「成績処理」という評価に関すること、「夏休み」や「夏休み前」という時期に関することに対して、教師は思い（「思う」）、感じている（「感じる」）』とつなぎ合わせることができる。さらに、(1)の質問項目の1位の抽出語は、評価（12回）である。あゆみ作成に関連する業務の抽出語「評価」「あゆみ」「成績処理」の3語の合計出現回数は35回となる。あゆみ作成は、教師にとって大きな負担となっており、2学期制に伴いあゆみ作成の回数を減らすことは、教員の負担軽減につながると考えられる。

3-3 階層的クラスター分析

(1)-(4)のそれぞれについて、出現傾向の似通った語の組み合わせにどのようなものがあつたのかを探索するために階層的クラスター分析を行い、デンドログラム（樹形図）を作成した。また、KWICコンコーダンス（抽出語の前後の文脈を確認できる機能）を用いて、これらの語が文章中でどのように使われていたのか、その文脈を確認していった。

(1) 教育活動の充実について

「2学期制により、1つの学期が長くなり、余裕をもって落ち着いた学習指導や生徒指導ができたと思う」についての理由に関する階層的クラスター分析の結果を図5に示す。9のクラスターに分類された。

第1のクラスターは、「見る」「スパン」「児童」「変容」「長い」であった。「2学期制はゆとりがあり、長いスパンで児童の変容を見ていくことができる」（肯定）、「特別支援学級の子どもたちの実態を考えると、長いスパンの方が子どもたちの変容を評価しやすかった」（肯定）、「100日のスパンで学習計画や主題研究ができる」（肯定）等、1つの学期が長くなることにより、児童の変容の見取りや評価がしやすくなるだけでなく、教員研修も充実した様子が窺える。

第2のクラスターは、「定着」「学力」「基礎」であった。2学期制が基礎学力にどのような影響を及ぼしたかについての記述があつた。「基礎学力の定着の時間の確保ができた」（肯定）という声がある一方、「余裕をもつことはできたが基礎学力の定着につながったか分からない」（肯定）との声もあった。

第3のクラスターは、「夏休み」「作成」「あゆみ」であった。「あゆみの作成が2回になることで、その分の時間を教育活動にあてることができた」（肯定）、「あゆ

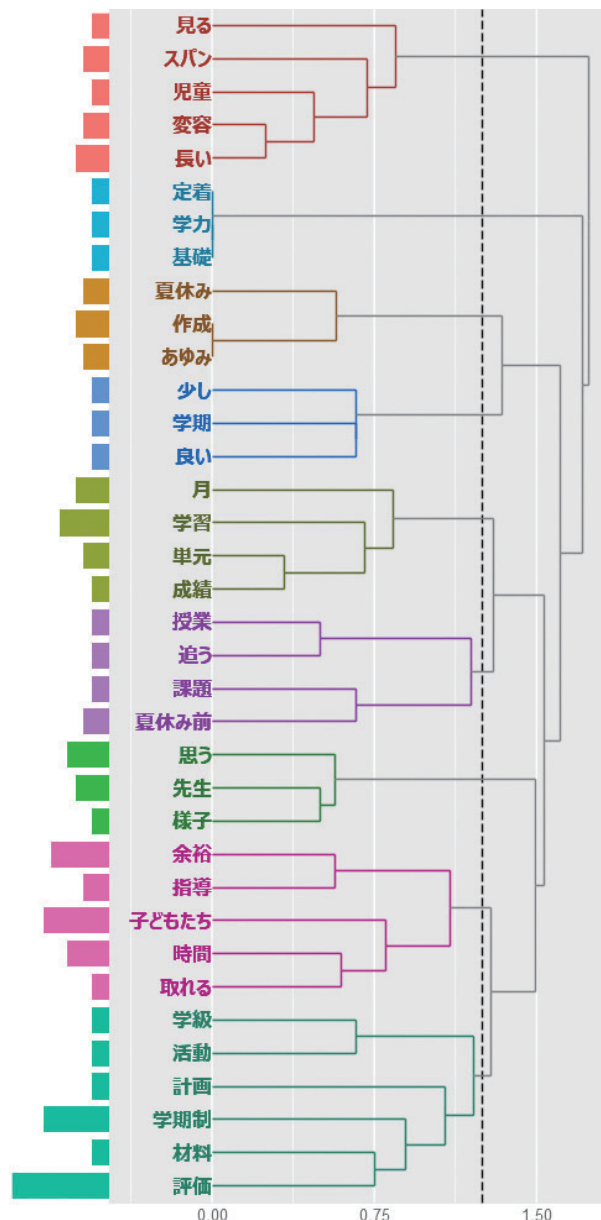


図5. 教育活動の充実についての階層的クラスター分析

みの作成は、夏休み中にあらかじめしておくことにより、9月中の負担を減らすことができた」（肯定）等、あゆみの作成回数と作成時期の変更により負担が軽減され教育活動が充実したと推察される。

第4のクラスターは、「少し」「学期」「良い」であった。「（今までは）1学期末に、評価のために少し急いで学習をしてしまったような場面を今回はしっかりと学習することにより子どもたちに力をつけられた」（肯定）と、学期末に時間的なゆとりが生じることにより学習指導が充実できたとの満足感が確認された。

第5のクラスターは、「月」「学習」「単元」「成績」であった。「2学期制になって7月の最後までしっかり学

習ができた」(肯定)、「成績の締め追われて単元が端折られることが少なく、夏休み前の学習がしっかりと進められた」(肯定)等、7月の学習指導が充実した様子が読み取れる。

第6のクラスターは、「授業」「追う」「課題」「夏休み前」であった。「授業時数や進度に追われることなく、授業に取り組むことができた」(肯定)、「夏休み前に(児童の)課題を保護者に伝えることで、後半への課題克服につながった」(肯定)等、夏休み前に保護者と連携することで、夏休みの生活が充実し、夏休み後の子どもの成長につながることを示唆された。

第7のクラスターは、「思う」「先生」「様子」であった。「3学期制の学校の様子とは比べ、先生方の多忙感の違いは大きいと思う」(肯定)、「夏休み前に先生たちの余裕があり、とてもよいと思う」(肯定)、「先生たちの様子を見てゆとりがあると思いました」(肯定)等、3学期制の頃とは違う先生方の様子が窺える。

第8のクラスターは、「余裕」「指導」「子どもたち」「時間」「取れる」であった。「教師に余裕が生まれたため、子どもたちに寄り添う落ち着いた指導や教職員の情報共有の時間も取れた」(肯定)、「余裕をもって指導ができたので評価がしやすかった」(肯定)、「2学期制になり、そのばたつきがなく余裕をもって学習指導にあたることができた」(肯定)等、時間的なゆとりが子どもたちへの充実した教育活動につながっていったと考えられる。しかし、「子どもたちの理解として、長い休みを区切りとした3学期制の方がしっくり来やすいようで説明が難しかった」(中立)と、子どもの立場から見た2学期制のよさは何であり、それを子どもたちにどのように伝えていくのかという課題も浮かび上がってきた。

第9のクラスターは、「学級」「活動」「計画」「学期制」「材料」「評価」であった。「2学期制になり評価の材料が増えたので、様々な視点から評価ができた」(肯定)、「評価をする材料が十分に集められた」(肯定)、「余裕をもって指導ができたので評価がしやすかった」(肯定)等、教師の時間的なゆとりが子どもたちの細やかな見取りと評価につながっていったようである。

(2) 子どもと向き合う時間の確保について

「2学期制により、ゆとりのある教育活動が展開され、子どもと向き合う時間の確保ができたと思う」についての理由に関する階層的クラスター分析の結果を図6に示す。6のクラスターに分類された。

第1のクラスターは、「増える」「心」「相談」「一人ひとり」「週間」であった。「心の相談日週間を生かして、

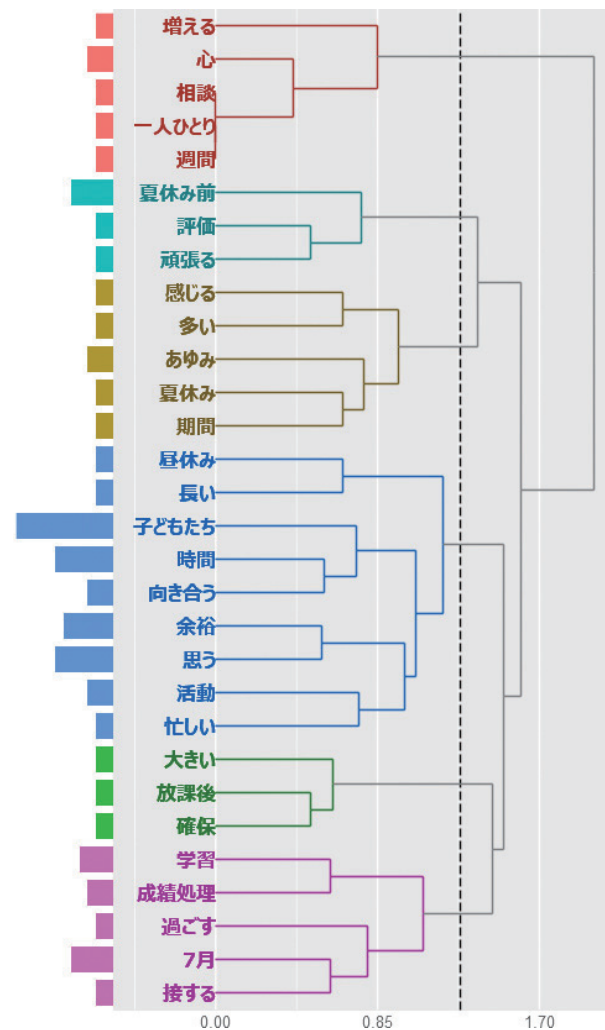


図6. 子どもと向き合う時間の確保についての階層的クラスター分析

一人ひとり面談を行うことができた」(肯定)、「ゆとりをもって、子どもたち一人ひとりとの対話が増えた」(肯定)等、教師が心の余裕を持つことで子どもたちと向き合う時間が増えていったことが窺える。

第2のクラスターは、「夏休み前」「評価」「頑張る」であった。「夏休み前のあわただしさ、殺伐とした空気がなかった」(肯定)、「毎年7月をばたばたと過ごしていたが、夏休み前までゆったりと子どもたちに接することができた」(肯定)等のゆとりある教育活動だけでなく、「夏休み前に保護者にここを頑張ってほしいと伝えた内容を(その子が)その後に頑張ったことを評価したい」(肯定)というような効果的な教育活動も展開されたようである。

第3のクラスターは、「感じる」「多い」「あゆみ」「夏休み」「期間」であった。「あゆみの作成についても夏休みに取り組まれている先生方も多かった」(肯定)、「評

価を夏休み期間中にゆっくりと見ることができた」(肯定)等, あゆみ作成時期の移動について肯定的な意見が述べられていた一方で, 「あゆみの期間と参観の日が重なってしまい少し大変だった」との意見もあった。学校行事の時期見直しの検討が必要かもしれない。

第4のクラスターは, 「昼休み」「長い」「子どもたち」「時間」「向き合う」「余裕」「思う」「活動」「忙しい」であった。「子どもたちに寄り添う時間をいつもより確保できたと思う」(肯定), 「子どもたちとより深くかわることができたように感じる」(肯定), 「時間的にはとても余裕があり, 子どもたちとゆったりと過ごすことができたと思う」(肯定)等, 子どもたちにしっかりと向き合った教師たちの確かな手応えと満足感が記されていた。

第5のクラスターは, 「大きい」「放課後」「確保」であった。「2学期制もあるが, 放課後学習がなくなったことによる放課後の時間確保が大きい」(肯定)との意見もあった。

第6のクラスターは, 「学習」「成績処理」「過ごす」「7月」「接する」であった。「7月中に落ち着いて学習活動を行えた」(肯定), 「子どもたちと関わりにくくなる7月でも余裕をもって関わる事ができた」(肯定), 「7月に成績処理等がなかったため, ゆとりをもって子どもたちと接することができた」(肯定)等, 2学期制に伴う7月の業務内容の変化が, 教育活動の質の向上へと連動していったことが推察される。

(3) 業務改善について

「2学期制により, 業務改善が行われ, 働き方改革が推進されたと思う」についての理由に関する階層的クラスター分析の結果を図7に示す。6のクラスターに分類された。

第1のクラスターは, 「感じる」「回数」「減る」であった。「あゆみを見る回数が減ったことは間違いなく業務改善を担っている」(肯定)という声がある一方, 「結局1学期に行っていた仕事を夏休みに行ったという点では仕事の量は減っていないと感じた」(肯定), 「夏休みに成績のことを感じながら過ごしたのはとてもストレスであった」(肯定), 「成績処理の回数は減ったが, それ以外に関しては, あまり大きな変化は感じていない」(中立), 「残業等を考えると仕事量が減ったとはあまり思わない」(否定)等, 肯定的・中立的な立場の教職員からも, 2学期制が業務改善につながっていないという声が多く記されていた。

第2のクラスターは, 「学期制」「業務」「業務改善」

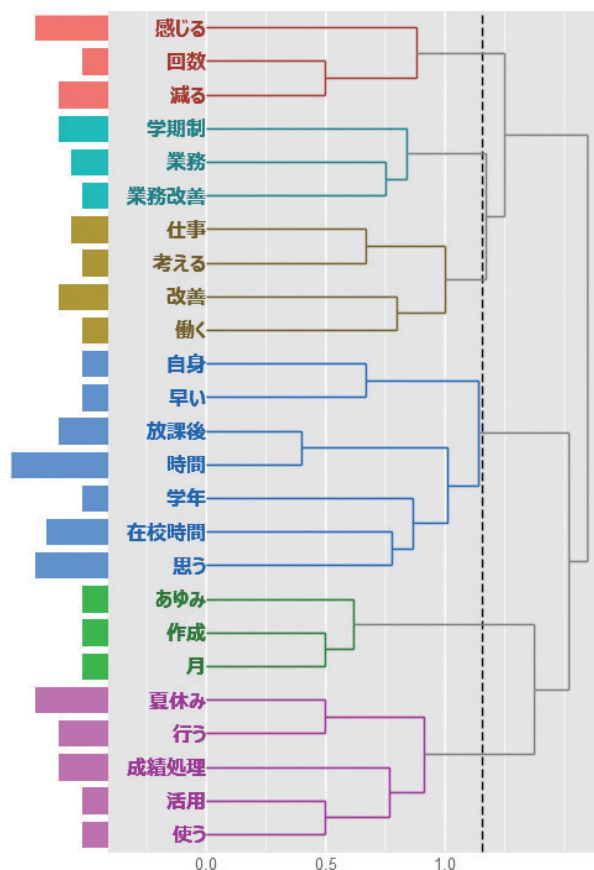


図7. 業務改善についての階層的クラスター分析

であった。ここでも, 「働き方改革をするためにも2学期制は有効だ」(肯定), 「成績処理関係の業務を夏休みに入れることにより, その後の負担を減らすことができた」(肯定)という考えがある一方で, 「2学期制になってあゆみは2回になったが, その他の業務がたくさんあるので業務改善ができていのかは分からない」(中立), 「2学期制によるかの判断が難しい」(中立)等の考えも示された。2学期制により, 成績処理等の業務を行う時期がずれ, 業務が分散されたことによる負担軽減は効果があったと思われるが, 業務量自体は大きく変わっていないとも解釈できる。

第3のクラスターは, 「仕事」「考える」「改善」「働く」であった。ここでは, 第1クラスターと同様の意見がある一方, 「私たちが働きやすいように考えてくださっている」(肯定), 「自身の在校時間については改善の余地が大きい」(肯定)等, 職場全体で環境改善に努めようとする雰囲気が感じられた。

第4のクラスターは, 「自身」「早い」「放課後」「時間」「学年」「在校時間」「思う」であった。「夏休みの時間を活用して成績処理を進めることができた」(肯定), 「放課後の時間を上手に使うことができた」(肯定),

「あゆみ作成を6月や7月に残ってすることがなかった」ので在校時間の短縮につながった」(肯定)等、2学期制により時間の有効活用ができたようである。

第5のクラスターは、「あゆみ」「作成」「月」であった。「あゆみ作成を夏休みに行うことができた」(肯定)、「所見の作成等、成績処理関係の業務を夏休みに入れることにより負担を減らすことができた」(肯定)等、あゆみ作成の時期をずらすことで業務が分散されたようである。

第6のクラスターは、「夏休み」「行う」「成績処理」「活用」「使う」であった。「夏休みの時間を活用して成績処理を進めることができたため、放課後の時間を上手く使うことができた」(肯定)等、夏休みに成績処理を行える利点があるとの意見もあった。

(4) 今後の展望について

「2学期制のよさを感じたので、今後も2学期制がよいと思う」についての理由に関する階層的クラスター分析の結果を図8に示す。6のクラスターに分類された。

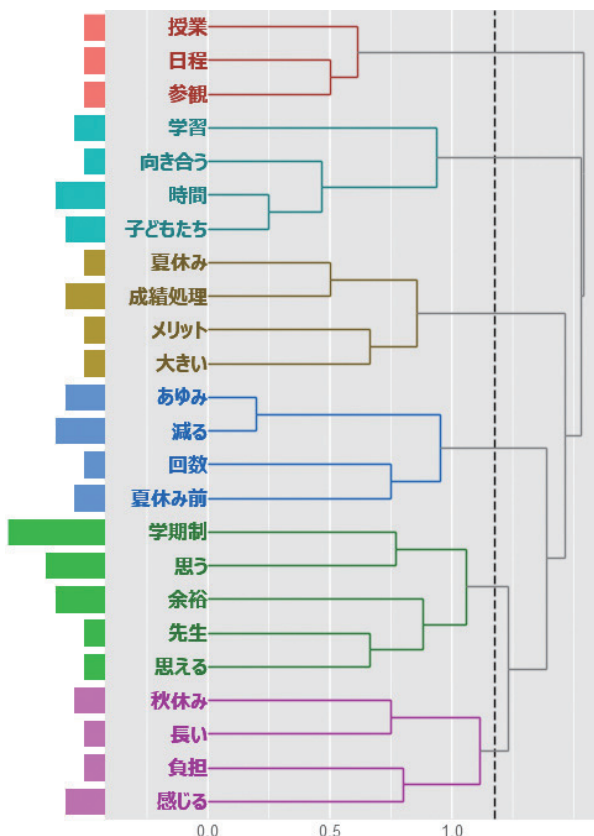


図8. 今後の展望についての階層的クラスター分析

第1のクラスターは、「授業」「日程」「参観」であった。「人権授業参観やスポーツデイ、自然教室の日程等

が考慮できるとよりよい」(肯定)、「学習参観の時期をできればずらしたい」(肯定)等、2学期制を効果的にするための学校行事の時期についての案が示されていた。

第2のクラスターは、「学習」「向き合う」「時間」「子どもたち」であった。「夏休み前のバタバタ感がなくなり、子どもたちへ向き合う時間や学習時間をしっかり確保できていた」(肯定)、「長い目で子どもたちの成長が見れる」(肯定)等、時間的にゆとりができ、その時間が子どもたちのために活用されていったことが窺える。

第3のクラスターは、「夏休み」「成績処理」「メリット」「大きい」であった。「成績処理が年2回で済むのはありがたい」(肯定)、「成績処理の業務を夏休み中にある程度完了できるメリットは大きい」(肯定)等、教員にとって成績処理をする回数や時期は、業務に関する負担軽減の大きな要素であることが分かる。

第4のクラスターは、「あゆみ」「減る」「回数」「夏休み前」であった。「あゆみが2回になったことで、かなり仕事への負担が減った」(肯定)、「あゆみの回数が減ったことと夏休み前の時間を効果的に使えたことがよかった」(肯定)等、教員にとってあゆみ作成の回数が2回に減ったことは、かなりの負担軽減になったと思われる。

第5のクラスターは、「学期制」「思う」「余裕」「先生」「思える」であった。「心と体に余裕が持てたので絶対に2学期制がいい」(肯定)、「2学期制のゆとりを実感したので他校にも広げたい」(肯定)等、余裕をもって教育活動に取り組むことのできる2学期制を継続したいとする声が多数ある一方、「2学期制の説明の仕方にはまだ検討すべき部分がある」(中立)との声もあった。

「なぜ2学期制なのか」を子どもや保護者に丁寧に説明しながら教育効果をさらに高めていく工夫が求められている。

第6のクラスターは、「秋休み」「長い」「負担」「感じる」であった。「秋休みの存在も、教師・子ども双方にとってメリットがあると感じる」(肯定)、「(旧)長い2学期を乗り切る上で、秋休みは一つの節目になる」(肯定)等、秋休みについての考えも示された。

4. おわりに

本稿では、校長のリーダーシップのもと、教員の働き方改革の一環として取り入れた2学期制が教員の働き方にどのような影響を及ぼしたのかを明らかにすべく、教職員への質問紙調査をKH Coderによるテキストマイ

ニング分析を行い考察した。

その結果、①2学期制は、1つの学期が長くなるので児童の見取りや評価がしやすくなる、②あゆみ作成の回数が減るので業務の負担軽減につながる、③あゆみ作成の時期が夏休みにずれ込み業務時期が分散されるので7月に時間的なゆとりが生まれる、④7月に時間的なゆとりが生まれることで学習指導が充実したり子どもと向き合う時間が確保できたりする、⑤夏休み前に保護者と連携することで夏休みの生活が充実し夏休み後の成長が期待できる等、教員の働き方を改善し、教育活動を充実させていく可能性をもった取り組みであることが分かった。

その一方で、3学期制に慣れた子どもや保護者にその良さや効果をどのように伝えていくのか、あゆみの回数が1回減っただけで本当に業務量が減ったと言えるのか等が課題として挙げられた。

A市立B小学校では、95.2%の教職員が、本年度開始した2学期制の取り組みを今後も継続してほしいと願っている。業務を軽減し、業務を分散させていった校長のリーダーシップがこの状況を生み出したと言える。

教員がゆとりを持ち、生き生きと働くことは、そのまま子どもたちへの教育活動の質向上につながっていく。教員を取り巻く環境改善が急務であるだけに、まだ始まったばかりではあるが、この2学期制の取り組みの改善・充実に期待したい。と同時に、教員の働き方改革を支援する意味でも、B小学校での2学期制の取り組みを継続観察できればと考えている。

A市においては、働き方改革としての2学期制の取り組みが少しずつ広がりつつあるという。B小学校1校だけでなく、A市の2学期制の取り組み全体にフィールドを広げることは本研究の課題でもある。

〈注〉

(1) あゆみとは、学期の終わりに学校(担任)から渡される通知表のことである。法的に規定されている表簿ではないため、「通信簿」「通知票」「あゆみ」等呼び方も学校によって異なる。また、形式や内容も学校ごとに

相違が見られる。一般的に、児童の成績や学校での様子について記されることが多い。

参考文献

- (1) 文部科学省(2023) 初等中等教育局「教員勤務実態調査(令和4年度)の集計(速報値)について」
https://www.mext.go.jp/content/20230428-mxt_zaimu01-000029160_2.pdf
(2023年10月18日閲覧)
- (2) 文部科学省(2023) 中央教育審議会初等中等教育分科会「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策(提言)」
https://www.mext.go.jp/content/230828-mext_zaimu-000031605_1.pdf
(2023年10月18日閲覧)
- (3) 藤原幸男(2007)「2学期制導入の現状と課題」琉球大学教育学部紀要, 67, 119-128.
- (4) 文部科学省「教育課程の編成・実施状況調査」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1263169.htm
(2023年10月18日閲覧)
- (5) 樋口耕一(2020)「社会調査のための計量テキスト分析[第2版]—内容分析の継承と発展を目指して—」ナカニシヤ出版
- (6) 樋口耕一・中村康則・周景龍(2022)「動かして学ぶ! はじめてのテキストマイニング—フリー・ソフトウェアを用いた自由記述の計量テキスト分析—」ナカニシヤ出版
- (7) 越中康治・目久田純一(2017)「道徳の教科化に対する教師・保育者及び学生の認識(2)—テキストマイニングを用いた分析—」宮城教育大学紀要, 51, 167-176.
- (8) 高丘有季乃・湯地宏樹(2022)「保育者のドキュメンテーションに対する考えに関するインタビュー調査—テキストマイニング分析を通して—」鳴門教育大学学校教育研究紀要, 36, 129-136.

(2023年11月7日受理)